

加工用野菜(玉ねぎ、キャベツ)の 販売情勢および作付提案について

1. 加工用野菜(玉ねぎ)の販売情勢・作付提案

(1)販売情勢

本県産加工用玉ねぎは、北海道産出回り後の5～8月末を中心に販売をおこなっています。この時期は、かつては佐賀県産が中心でしたが、現在は、いわゆる新興産地(熊本、愛知、関東圏など)のほか、富山県や東北圏でも盛んに作付けされています。この中で品質の良い産地が加工業者選ばれ、生き残っていくと言われており、各産地が一層の品質向上に向けて取組みを進めています。

加工業者が最も気にするポイントは「乾燥」です。産地でしっかりと乾燥され、手に持ったときにビシッと硬いものが良い玉ねぎとされています。

(2)作付提案

★たまねぎ栽培のメリットは？

○**メリット** ⇒機械化一貫体系が構築されており、作業省力化が可能です！

△**注意点** ⇒湿害に弱く、水田利用の場合、暗渠縁縁明渠の施工等の排水対策が必要です。

★主な作型・作業は？

品目 (品種)	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
たまねぎ	●	●	▲	▲							■	
	播種		定植								収穫	



★助成措置は？

○県の各種補助事業を活用し、初期投資を抑えることができます！

○JAを通じて全農の担い手支援策や機械の貸出し事業を活用できます！

○JAグループ新潟「農業応援ファンド」の活用もできます！

2. 加工用野菜（キャベツ）の販売情勢・作付提案

(1) 販売情勢

キャベツの作型は、春、夏秋、秋冬に大別され、春(4~6月)は千葉、神奈川等の関東産、夏秋(7~10月)は群馬、長野等の高冷地、秋冬(11~3月)は愛知、神奈川、千葉等の東海・関東産が主産地となります。

本県産の加工用キャベツは、秋冬を中心に販売をおこないますが、前述の主産地のほか、関東圏、東北圏の産地も出荷をおこなうため、競合しやすい時期と言えます。そのため、他県の豊凶作に左右されることもしばしばあります…。

そんな厳しい情勢の中でも、加工業者からは「新潟県産は揃いが良く、加工しやすい」との評価をいただいています。今後信頼される産地として、安定した品質・出荷量の確保が求められています。

(2) 作付提案

★キャベツ栽培のメリットは？

○**メリット** ⇒ 品種や栽培方法が確立されており、作りやすい品目です！

△**注意点** ⇒ 病害虫防除(発生初期の防除)、ほ場の排水対策が重要です。

★主な作型・作業は？

品目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
春まきキャベツ	●	▲	▲	■								●
夏まきキャベツ				●	●	▲	▲	■				



★助成措置は？

○県の各種補助事業を活用し、初期投資を抑えることができます！

○JAを通じて全農の担い手支援策や機械の貸出し事業を活用できます！

○JAグループ新潟「農業応援ファンド」の活用もできます！



以上

(園芸部 園芸振興課・花き・直販課)

※ 掲載内容の無断使用・転載を禁じます。